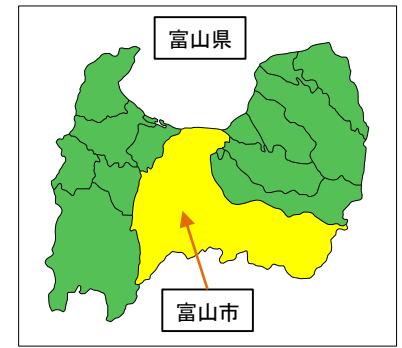


中山間地域の資源を活用した地域特産品づくり

とやまし やまだかまくら
(富山県富山市 山田鎌倉集落協定)



- けいおうざくら
- 大学サークルの農業ボランティアと「マコモタケ」、「啓扇桜」の地域特産品づくり、県単事業を活用した商品開発や、都市農村交流活動を展開し、地域を活性化。

面積：8.6ha（田）、1.0ha（畑） 交付金額：237万円（個人配分51%、共同取組活動49%）
協定参加者：農業者8人、生産組合1、営農組合1、非農業者2人 協定開始：平成12年度

地域の現状

- 当地区は、富山市西部に位置する中山間地で、水稲主体の地域。
- 農業者の高齢化による担い手不足、農道・水路の管理作業等の参加者の減少等により、将来に向けて、農地の維持・管理が困難となることを危惧し、平成12年度から本制度に取り組む。
- 平成20年に集落営農組織を設立し、平成19年から「啓扇桜」と「そば」、平成22年から「マコモタケ」、平成25年から「エゴマ」の生産に着手し、水稲単一経営から複合経営の確立に向けて取り組む。
- 転作物目の「マコモ」は、中山間地域の豊富な湧き水を使い、無農薬で栽培。



【啓扇桜】



【マコモタケ】

取組の概要

- 協定農用地の8割を担い手へ集積し、効率的な生産体制を確立。（営農組合に8.0ha集積）
- 手作業で行う収穫時の人手不足は、大学生の農業ボランティアに応援を得て行い、大学ボランティアサークルと地域が連携・交流。
- 「マコモタケ」を使った料理講習会や、「マコモ」の葉を使った「しめ飾り」作成講習会、「そば祭り」、とやま帰農塾と連携した「いなか体験」等のイベントにより地域内外参加者と交流。
- 県中山間地域チャレンジ支援事業を活用して、地域特産品の「マコモタケ」を「昆布じめ」等に加工し、農産物直売所やレストラン等で販売。「啓扇桜」は、地域の商店、物産センター、大阪鶴見市場等で販売。地域農産物の加工・商品化により、農業者の営農意欲が向上。



【大学生のマコモタケ収穫作業】



【昆布じめと缶詰】



【しめ飾り】